

社会福祉学教育における学士力の考察

※ 専門職業人養成の教育だけでなく、社会福祉学教育の視点から検討したもので、既存の社会福祉士等養成施設のコア・カリキュラムによるだけでなく、今後の社会福祉学教育発展の視点を含めた。

【到達目標】

1. 人間と社会環境の視点から、現代社会の生活に関わる諸問題を把握し、社会福祉の意義と機能を理解できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

現代社会と社会福祉など

【到達度】

- ① 人間という存在と家族、集団、地域、制度など社会環境について概説できる。
- ② 差別、貧困、家族関係、虐待・暴力、疾病、就労など現代社会における諸問題の発生要因・歴史的背景・実態について概説できる。
- ③ 現代社会における諸問題と関連づけて、社会福祉の目的・機能を具体的な事例に合わせて概説できる。
- ④ 社会福祉制度・政策および関連施策などについて概説できる。

【測定方法】

- ①～④は、社会福祉の意義と機能の観点から、講義、演習におけるレポート、筆記試験などにより、確認する。

【到達目標】

2. 人権尊重および社会正義の理念を確認し、ソーシャルワークの目的・価値・倫理の概要を理解できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

ソーシャルワーク論など

【到達度】

- ① 基本的人権について概説できる。
- ② 性別、国籍、人種、民族、障害、宗教、セクシャルティなど人間の多様性を通して、共生の価値観について概説できる。
- ③ 人権侵害の状況を理解した上で、エンパワメントの理念と権利擁護の仕組みを概説できる。
- ④ ソーシャルワーカーの倫理綱領を概説できる。

【測定方法】

- ①～③は、ソーシャルワークの視点から、レポート、筆記試験などにより、確認する。
- ④は、筆記試験、口頭試問などにより、確認する。

【到達目標】

3. ソーシャルワーカーとしての基本的態度を身に付けている。

【コア・カリキュラムのイメージ】

ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習など

【到達度】

- ① 他者の話を傾聴することができる。
- ② 受容的、共感的態度をもって対人関係を形成することができ、他者と協働することができる。
- ③ 守秘義務について理解し、プライバシー保護に努めることができる。
- ④ 援助における自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢を持っている。

【測定方法】

- ①～④は、ソーシャルワーカーとしての基本的態度を身に付けるために、演習、実習などにより、確認する。

【到達目標】

4. ソーシャルワークの専門的な知識および技術を身に付けている。

【コア・カリキュラムのイメージ】

ソーシャルワーク論、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習など

【到達度】

- ① 社会福祉サービスの利用者を理解し、ニーズ分析した上で援助目標を設定できる。
- ② 生活歴、家族関係、経済的背景、心理的・身体的背景など個別的状況を全体的に把握し、アセスメントについて理解し、説明できる。
- ③ ミクロ・メゾ・マクロのソーシャルワークについて概説できる。
- ④ ソーシャルワークのジェネラリスト・モデルについて概説できる。

【測定方法】

- ①は、社会福祉サービスの利用者ニーズを理解するため、演習および実習などにより、確認する。
②は、社会福祉サービスの利用者の個別的状況を理解するため、演習および実習により、確認する。
③と④は、ソーシャルワークの方法を理解するため、講義、演習におけるレポート、筆記試験などにより、確認する。

【到達目標】

5. 社会福祉に関する制度・政策を客観的に分析し、新たな社会資源やサービスプログラムを企画できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

地域福祉論、社会福祉調査、福祉行財政と福祉計画など

【到達度】

- ① 社会福祉制度・政策について理解している。
- ② 制度・政策の問題点と課題について説明できる。
- ③ 社会福祉ニーズを把握するための基礎的な社会福祉調査の設計ができる。
- ④ 問題解決のために、行政・地域・市民への働きかけや新たな資源やサービスプログラムの企画案を作成できる。

【測定方法】

- ①～④は、演習、事例検討、プレゼンテーション、卒業研究などにより、確認する。